

Maxi
24
取扱説明書

 Zoologica
孵卵器

Brinsea
Incubation Specialists



正規販売代理店:
Authorised Rep
Compliance Ltd. Ground
Floor, 71 Lower Baggot
Street, Dublin, D02 P593,
Ireland



ご使用前にお読みください！



本体にカバーをかけないでください！

本製品は、付属の電源アダプターのみでご使用ください。

破損した製品は絶対に使用しないでください。

本体・電源アダプター・電源コードは水がかかったり湿気の多い場所を避け、動物に触れられない室内の安全な場所に設置してください。

修理は、必ず資格を持つ専門の技術者に依頼してください。

お子様や身体・認知機能などに不安のある方、または機器の取り扱いに不慣れな方は、監督者の指導がない場合は使用・お手入れを行わないでください。また、お子様が本製品で遊ばないように十分ご注意ください。

お手入れの際は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。電気部分は濡らさないようご注意ください。

本製品を安全かつ効果的に使うために、まずはこの説明書をよく読み、必要なときに見返せるよう大切に保管してください。

本書では、孵化を成功させるための基本的な使い方や手順を紹介していますが、孵化には様々な条件が関わっており、状況によっては別の方法が必要になることもあります。

より詳しい情報や孵化のアドバイスについては、当社サイトをご覧ください。当社サイト：www.brinsea.co.uk

本製品は、使う環境や卵の種類に合わせて設定を調整できるようになっています。そのため、どのような使用パターンにも対応した詳しい設定方法までは本書には記載していません。

より専門的な情報や具体的な種別ごとのアドバイスが必要な方は、以下の資料もぜひご活用ください。

孵化ハンドブック(無料)：www.brinsea.co.uk/incubationhandbook 種別ごとの書籍：www.brinsea.co.uk/books

Brinsea 製品をご購入後 30 日以内に、www.brinsea.co.uk のトップページのリンクから製品登録を行ってください。ご登録いただくことで、3 年間保証を受けることができます。また、Brinsea ニュースレターにご登録いただくと、最新情報やお得な情報をお届けします。

製品のシリアル番号をご記入ください：_____

目次

1	セットアップ	-
	開封と部品の確認	4
	組み立て	5
	ポンプの準備	8
	設置場所と設置方法	10
2	製品紹介 - 各部の機能説明	11
3	設定 - メニュー	12
4	表示画面の見方	13
5	湿度	15
6	湿度	16
7	卵	18
8	孵卵中の定期冷却機能	20
9	孵化とお手入れ方法	21
10	仕様	22

1 セットアップ

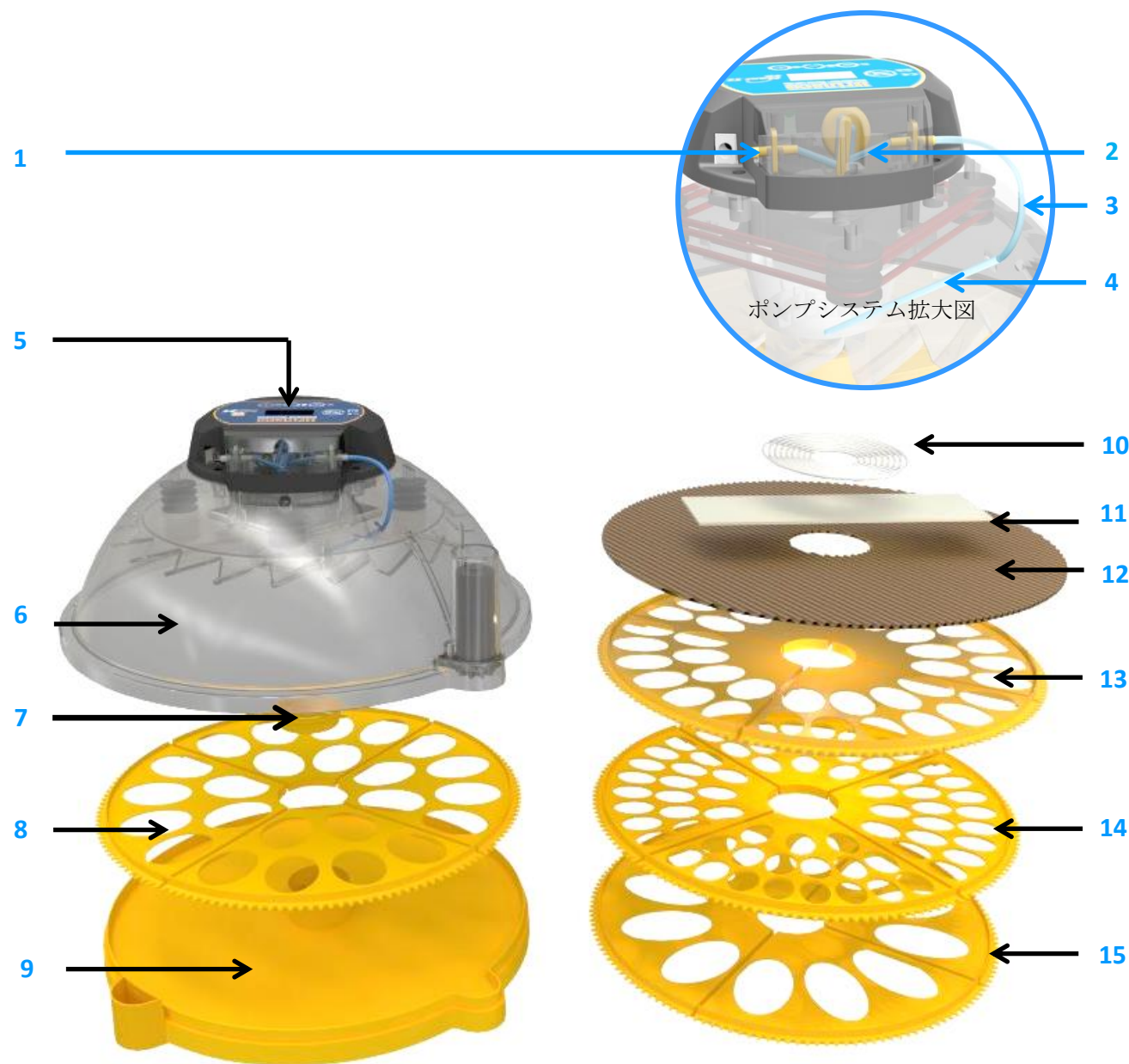
開封と部品の確認

本製品は、梱包材に包まれて出荷されています。孵卵器および各部品からテープ、バンド、梱包材を全てお取りください。再梱包が必要な場合に備え、箱や梱包材は保管しておくことをおすすめします。

ご使用前に、本製品の電源アダプターが使用場所の電源で使えるか必ずご確認ください。

右の図は、同梱されている部品です。各部品が正しく揃っているか確認してください。万が一、部品の破損や不足がある場合は、販売店または Brinsea 社（本書末尾に記載の住所）までご連絡ください。破損した製品は絶対に使用しないでください。

- 1: チューブジョイント (2 個)
- 2: 給水ポンプチューブ (70mm)
- 3: シリコンチューブ (110mm)
- 4: プラスチックチューブ (127mm)
- 5: ポンプカバー
- 6: フタ
- 7: 水受け
- 8: 鶏用卵座 (24 個用 ×4)
- 9: 土台
- 10: 給水チューブ (3m)
- 11: 蒸散パッド (2 枚)
- 12: 孵化用マット
- 13: ウズラ用卵座 (4 個)
- 14: 小型インコ用卵座 (4 個)
- 15: アヒル用卵座 (12 個用 ×4 個)
- 16: 電源アダプターおよびケーブル (※図には未表示)



1 セットアップ

組み立て

1: 蒸散パッドを幅約 45mm、長さ約 125mm にカットし、縦方向に半分に折ります。折ったパッドを水受けポットの中央の仕切り部分に差し込み、パッドの先端が底につくようにセットしてください。

2: 水受けポットに、水受けをしっかりと取り付けてください。

蒸散パッドがすき間にしっかり通され、ずれないように固定されていることを確認してください（図 2 参照）

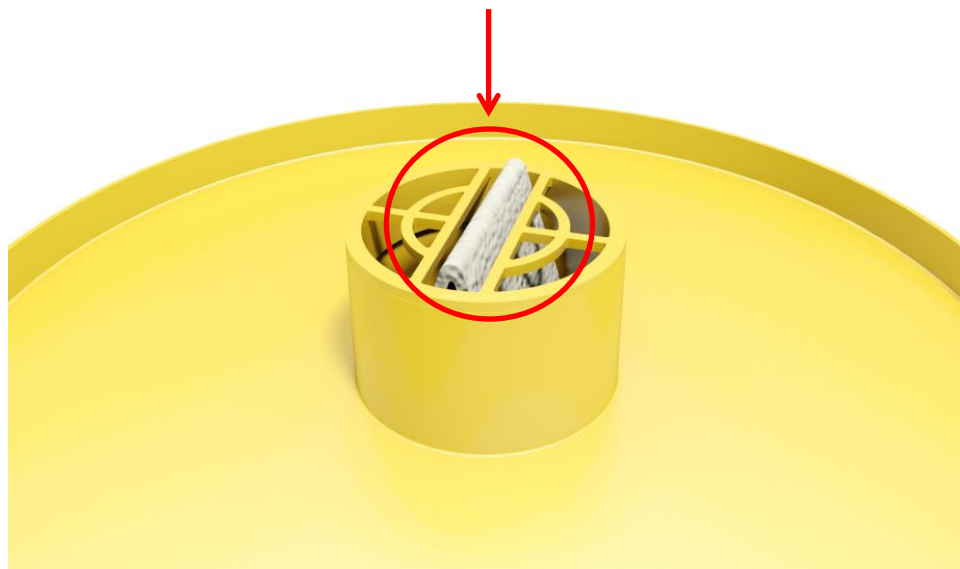
水受けポットに水は入れないでください。

1.



拡大図

2.

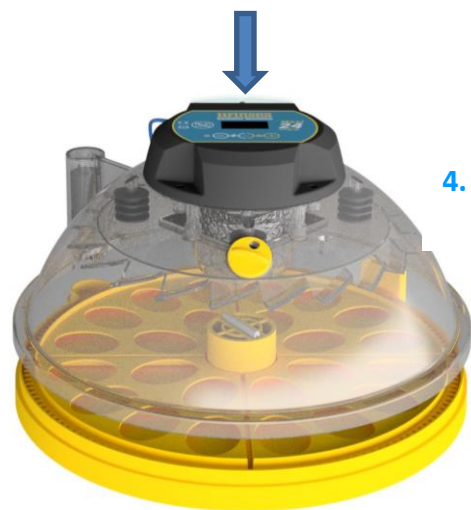


1 セットアップ

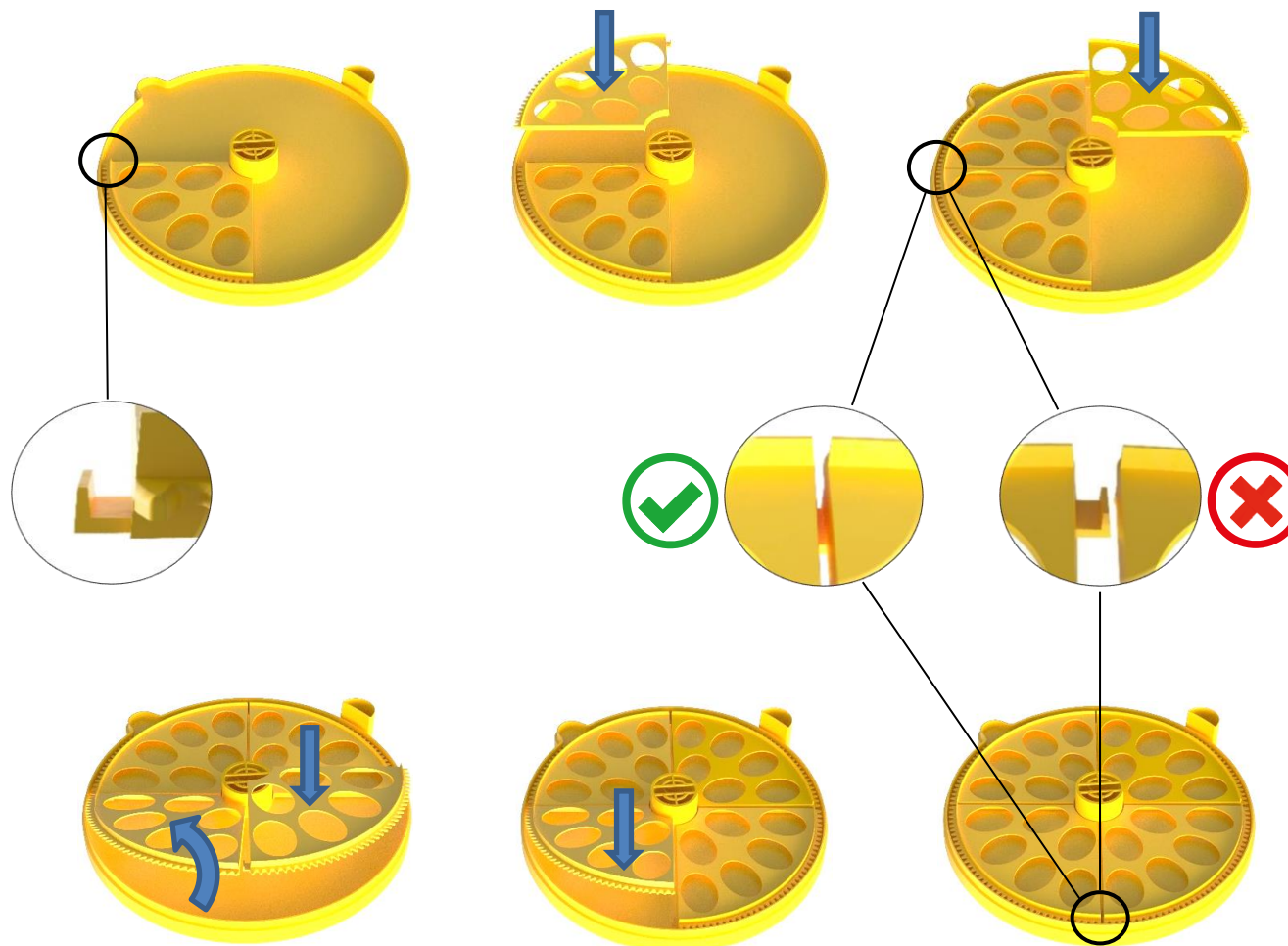
組み立て

3: 転卵板を、本体の土台部分に取り付けます。裏表の向きが正しいことを確認し、図のようにパーツ同士をしっかりと固定してください。

4: 土台の上にカバーをかぶせます。フタが土台の縁にぴったりとはまっているか確認してください。



3.



1 セットアップ

組み立て

5: 500ml～1L の給水容器を用意し、本体のすぐ横で同じ高さの場所に置いてください。

重要: 給水容器を孵卵器の上や、それより高い場所に置かないでください。水がサイフォン現象で流れ出し、本体内に水が入り込むおそれがあります。給水容器は、必ず本体と同じ高さ・同じ台の上に設置してください。

また、本体は水に濡れても大丈夫な場所（防水性のある場所）に置いてご使用ください。

5.



1 セットアップ

ポンプの準備

Maxi 24 Zoologica 孵化器は、ペリスタルティック方式の給水ポンプを採用しており、本体内の空気の湿度を自動で調整します。ポンプから送られた水は蒸散パッドにしみ込み、温かい空気が通ることによって水分が蒸発します（通常、水がたまることはありません）。この加湿された空気は加温室で均一に混ざり、卵にあたる空気の湿度と温度が一定に保たれます。

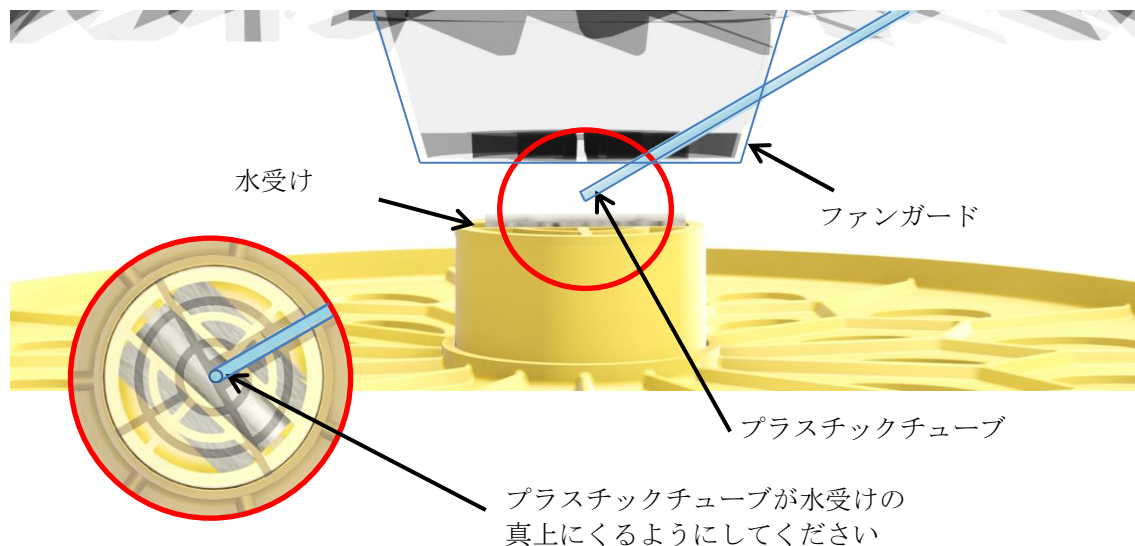
給水チューブ（70mm）、シリコンチューブ（110mm）、プラスチックチューブ（127mm）、チューブコネクター x2（給水チューブの両端に取り付け済み）が付属しています。一部組み立てた状態で出荷されているため、以下の手順に沿って各部品が正しく接続されているか確認し、給水チューブをキャプスタン（回転部分）に巻きつけてください。

1: チューブの先端がファンガードの隙間を通過して、水受けの真上にくるようにします。水がしっかり蒸散パッドの上に落ちることを確認してください。

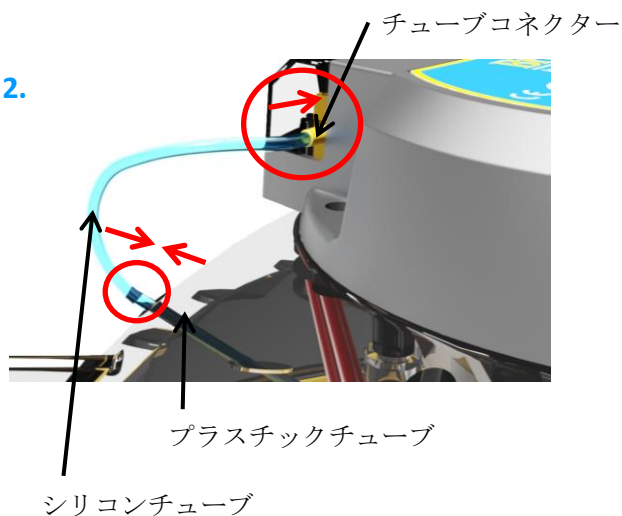
2: シリコンチューブの片側をプラスチックチューブに、もう一方をチューブコネクターにしっかり差し込みます。

3: 給水容器につなぐシリコンチューブを必要な長さに切ります。フタを外して横に置けるように、少し余裕をもたせておくとう便利です。チューブの片側をチューブコネクターに、もう一方を給水容器に差し込みます。

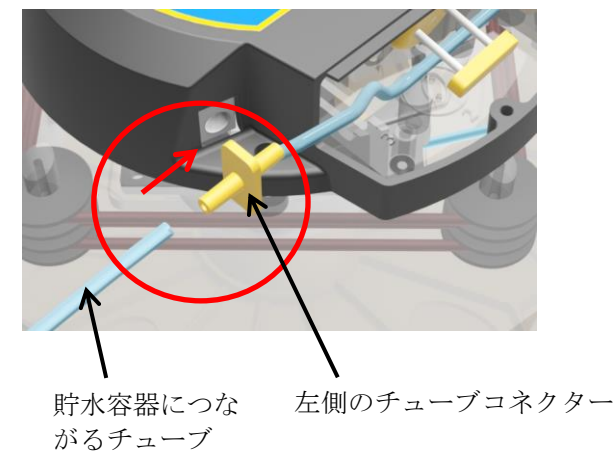
1.



2.



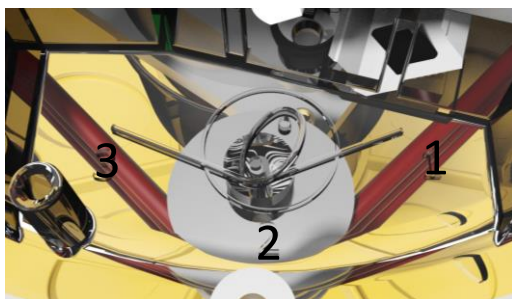
3.



1 セットアップ

ポンプの準備

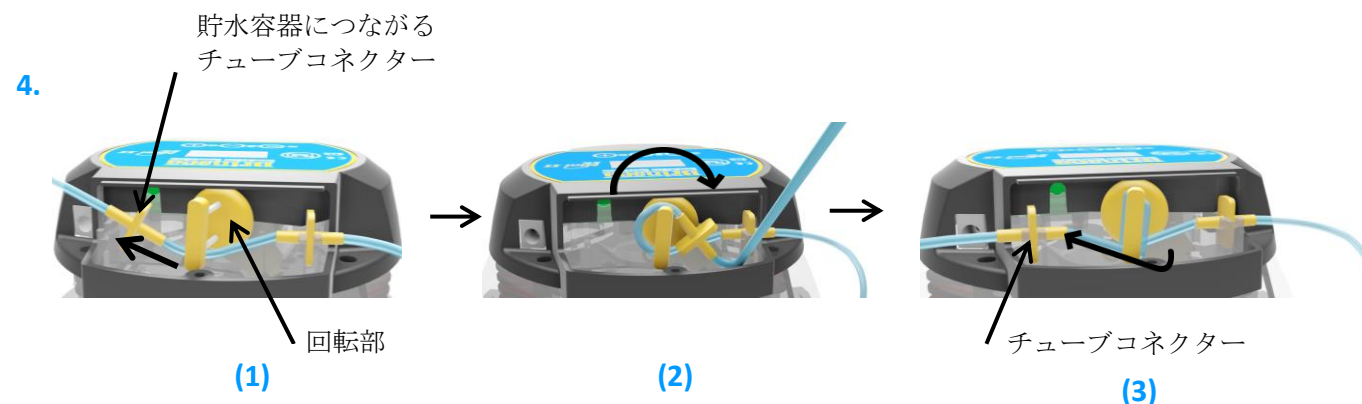
4: 図のように、1つ目のチューブコネクタが正しくはまっているか確認してください。次に、もう一方のチューブコネクタ（貯水容器につながる側）とチューブをポンプ回転部の下に通し、回転部に沿ってチューブを巻きつけながら、反対側の差し込み口に差し込んでください。本体に記載された図の順番（1→2→3）に従って作業を行ってください。



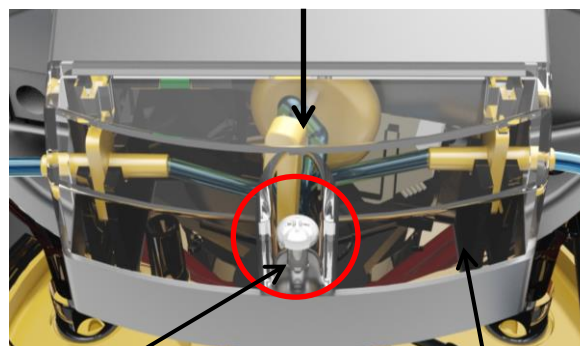
5: ポンプカバーをかぶせて、ネジを軽く締め固定します。

給水容器の水位を定期的に確認してください。

使用後はチューブの状態を毎回確認してください。ペリスタルティックポンプの給水チューブ（70mm）は約3ヶ月ごとに交換が必要です。新しいチューブを70mmにカットします。古いチューブを取り外す前にコネクタを外します。チューブを引き抜き、ねじれないように新しいチューブと交換します。本体に記載されている図を参考に、上記手順で正しく取り付けてください。



5.



ネジ

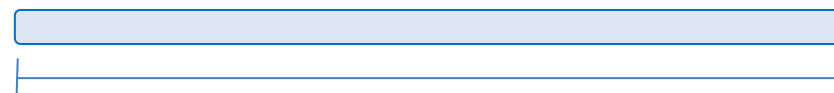
ポンプカバー

給水チューブの長さ



70 mm

シリコンチューブの長さ



110 mm

1 セットアップ

設置場所と設置方法

孵卵器を効果的に使用するためには、温度変化が少なく、通気性の良い暖かい部屋に設置するのが理想です。特に複数の孵卵器を同時に使用する場合は、しっかり換気ができる場所に置いてください。

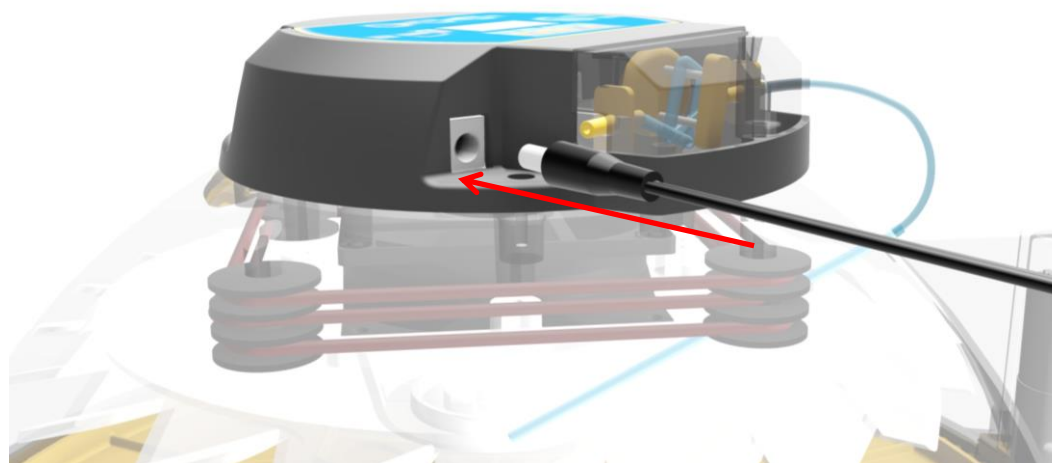
寒い夜などに部屋の温度が急激に下がらないように注意してください。可能であれば、室温を20～25℃に保てるようにサーモスタットで管理するのが望ましいです。室温が17℃を下回らないようにしてください。

孵卵器は直射日光が当たらない、平らで安定したテーブルや作業台の上に設置してください。床の上に直接置くのは避けてください。

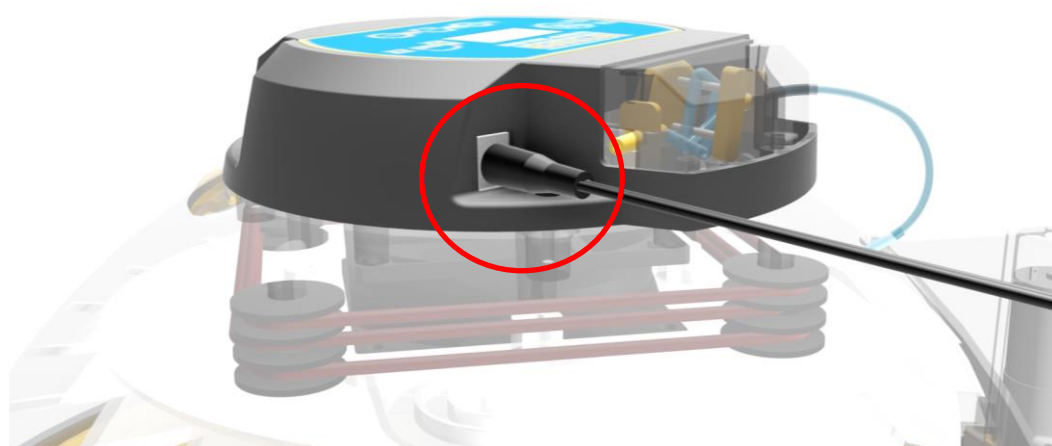
電源コードを電源アダプターに接続し、電源アダプターからのケーブルを本体上部(フタ部分)に接続してください。それぞれがしっかり差し込まれているか確認してください。

必ず製品に付属の電源アダプターをご使用ください。他の電源を使用すると、危険が生じたり、保証が無効になる場合があります。

1.



2.



2 製品紹介

各部の機能説明

1: デジタル表示画面

2: ポンプカバー

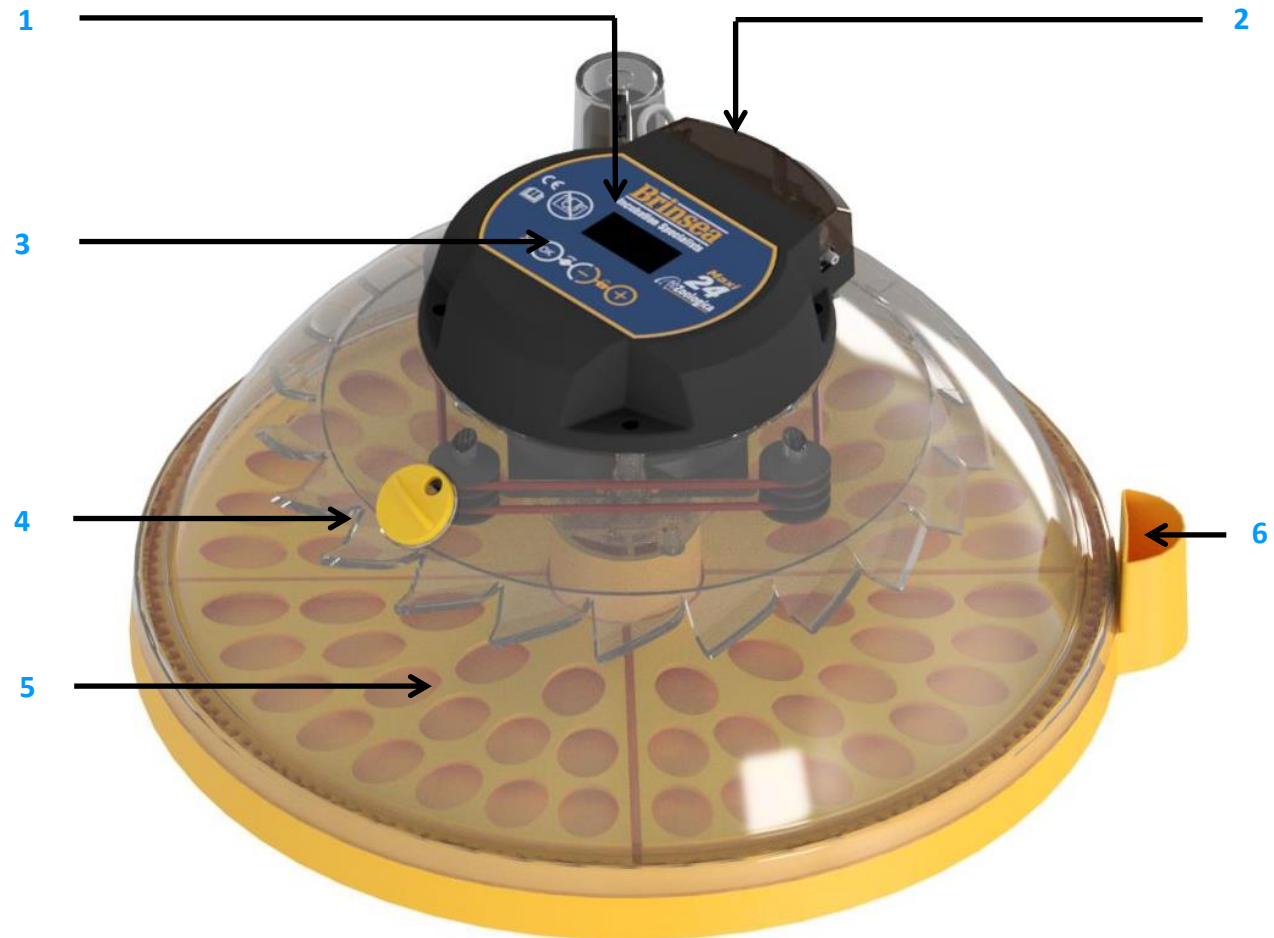
3: 操作ボタン

4: 換気口

5: 転卵板

6: 外部給水口

ポンプを使用中は外部給水口から水を入れ
ないでください。



3 設定

設定メニュー

右の図は、設定メニューの操作方法を示しています。下のキーの説明を見ながら、各ボタンの機能を確認してください。



+と-両方のボタンを同時に押してください。



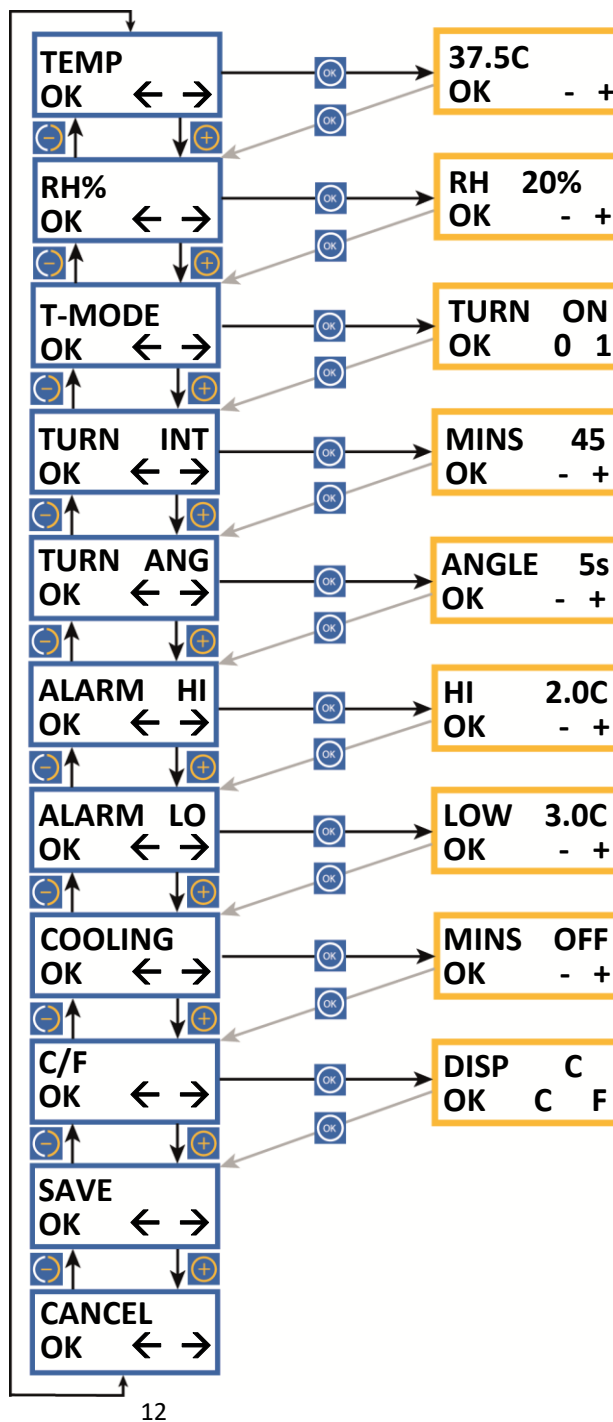
選択確定 / 前のメニューに戻る



画面を進める / 数値を上げる / °C表示に切り替える



画面を戻す / 数値を下げる / °F表示に切り替える



孵卵温度

設定範囲 20.0 – 40.0°C (68.0 – 104.0°F)
デフォルト - 37.5°C (99.5°F) セクション 5 参照

相対湿度

設定範囲 20% – 80%.
デフォルト - 20% セクション 6 参照

回転モード

自動回転機能のオン/オフ切り替え
デフォルト - ON

回転間隔

卵を回転させる時間間隔の設定
設定範囲 5 – 180 分
デフォルト 45 分

回転時間

モーターの動作時間によって、回転角度の設定
設定範囲 1 – 30 秒 デフォルト 5 秒 セクション 7 参照

高温アラーム

設定範囲 1.0 – 5.0°C (1.8 – 9.0°F) を上回ったときに作動するアラーム
デフォルト 2.0°C (3.6°F) セクション 4 参照

低温アラーム

設定範囲 1.0 – 5.0°C (1.8 – 9.0°F) を下回ったときに作動するアラーム
デフォルト 3.0°C (5.4°F) セクション 4 参照

定期冷却機能

24 時間ごとに一定時間だけヒーターを停止し、卵を一時的に冷却する機能。孵化開始から 7 日目以前、または孵化中には使用しないでください。

°C/°F 表示切り替え

温度表示単位の切り替え
デフォルト - °C セクション 5 参照

保存

全ての設定変更を保存し、通常の操作画面に戻る

キャンセル

全ての変更を無効にし、通常の操作画面に戻る

4 表示画面の見方

デジタル制御システム

Maxi 24 Zoologica に搭載されている制御システムは、個別に調整された高精度の温度センサーを使用しています。そのため、本製品の表示と比較する際には、安価なアナログ温度計やデジタル温度計の測定値には注意が必要です。

家禽用の設定例:

温度: 37.5°C

湿度: 45% (通気口は最小)

回転間隔: 45 分ごと (19 日目以降は回転を停止し、卵座を取り外してください)

回転時間: 9 秒

冷却: OFF

(自動湿度調整システムを使用している場合は、水受けに手動で水を追加しないでください)

(図 1)

T*37.5C
H 35% P/

通常表示 – 温度・湿度・回転システムの状態は常に表示されます。

- 温度表示の横にある「*」は、ヒーターが作動していることを示します。加熱中は「*」が点灯し、設定温度に達するとヒーターがオンとオフを繰り返しながら動作するため、ゆっくり点滅するようになります。温度設定を下げる「*」が消える場合がありますが、これは正常です。
- 一時的な冷却 (セクション 8 参照) が行われている間は、「*」の代わりに「↓」が表示されます。
- 湿度表示の横にある「*」は、ポンプが動作中であることを示します (セクション 8 参照)。ポンプは、本製品が作動温度に達し、設定湿度が現在の湿度より高い場合に作動します。
- 卵の回転がオフのときは、画面の隅に「O」が点滅します。
- 回転がオンのときは、斜線「/」が画面の隅に表示されます。

設定の変更 – メニューでは、様々な設定の変更と保存が可能です。停電時でも設定内容は保持されます。

- メニューを開くには、+と-ボタンを同時に押してください。メニューの詳細は 3 ページの目次から該当セクションをご確認ください。

停電時の表示 (図 1) – 停電後や電源を入れた直後には、ディスプレイの隅に「P」が点滅表示されます。この表示を消すには、「OK」ボタンを 2 秒以上押し続けてください。停電の原因が不明な場合は、電源ケーブルの接続状態を確認してください。

- 「P」の表示が消えたら、卵に異常がないかを確認するためにライトで卵を透かして中の様子を確認する作業を数回行うことをおすすめします。

4 表示画面の見方

(図 2)

T*39.8C
H 35% H/

(図 3)

T*32.1C
H 35% L/

(図 4)

T*37.5C
-RM /

(図 5)

T*37.5C
+RM /

高温アラーム表示 (図 2) – 本製品内部の温度が高温アラーム画面に設定された値を超えると、すぐにアラームが鳴り、「H」が表示されます。OK ボタンを押すと、アラームが 30 分間停止します。

- 温度が自動的に正常値に戻った場合でも、それを知らせるために「H」が表示されたままになります。OK を押して表示を消してください。直射日光が当たっていたり、暖房器具の近くに置かれていないか確認してください。高温になった後は、卵が影響を受けていないかを確認するため、数回キャンドル検査を行うことが推奨されます。

低温アラーム表示 (図 3) – 本製品内部の温度が低温アラーム画面に設定された値より低くなり、その状態が 60 分間続くと、「L」が表示されアラームが鳴ります。OK ボタンを押すと、アラームが 30 分間停止します。

- 温度が自動的に正常値に戻った場合でも、それを知らせるために「L」が表示されたままになります。OK を押して表示を消してください。冷たいすきま風が当たっていたり、部屋の温度が著しく低下していなかったか確認してください。このような状況の後は、卵が影響を受けていないかを確認するため、数回キャンドル検査を行うことが推奨されます。

室温低下アラーム (図 4) – 室温が適切な温度よりも低い状態が 1 時間以上続くと、-RM という警告が表示され、アラームが鳴ります。OK ボタンを押すことでアラームを 30 分間停止させることができます。この機能は、誤作動を防ぐために無効化することも可能です。詳細は Brinsea 社または販売店にお問い合わせください。

- 温度が自動的に正常値に戻った場合でも、それを知らせるために -RM が表示されたままになります。OK を押して表示を消してください。
- すきま風が入っていたり、部屋の温度が大きく下がっていないか確認してください。このような状況の後は、卵の状態を確認するために数回キャンドル検査を行うことが推奨されます。

室温上昇アラーム (図 5) – 室温が適切な温度よりも高い状態が 1 時間以上続くと、+RM という警告が表示され、アラームが鳴ります。OK ボタンを押すことでアラームを 30 分間停止させることができます。温度が自動的に正常値に戻った場合でも、それを知らせるために +RM が表示されたままになります。OK を押して表示を消してください。

- 直射日光が当たっていたり、暖房器具の近くに置かれていないか確認してください。
- 孵化が後期に入ると、卵自体の代謝熱によって本製品内の温度が上昇することがあります。このような高温も孵化に悪影響を与えるおそれがあるため、卵の状態を確認するために数回キャンドル検査を行うことが推奨されます。

5 温度

温度設定



1. -と+ボタンを同時に押し、メインメニューを解除します。



2. OK を押して温度設定画面に入り、+-ボタンで温度を調整します。



3. OK ボタンでメインメニューに戻り、「保存」までスクロールして OK を押して設定を保存します。

温度を下げた場合、冷却中に「*」マーク（ヒーター作動表示）が一時的に消えることがあります。これは正常です。温度の調整は慎重に行ってください。わずかな違いでも孵化結果に大きな影響を与える可能性があります。

°F 表示への切り替え



1. -と+ボタンを同時に押し、メインメニューを解除します。



2. C/F 表示切り替えの項目までスクロールし、OK ボタンを押します。



3. +ボタンで °F を選択、-ボタンで °C を選択します。



4. OK ボタンでメインメニューに戻り、「保存」までスクロールして OK を押して設定を保存します。

ご注意ください: 初期設定でニワトリの卵に適した温度に設定されています。孵化させる卵の種類に応じて、メニューから温度を調整することを推奨しています。

温度が設定値に近づくと、ヒーター作動を示すアスタリスク「*」が常時点灯から点滅に変わります。温度を調整する前に、最低でも 1 時間は安定した状態で運転させてください。

	推奨温度		平均孵化期間:
オウム類:			
アマゾン	36.8 – 37.0°C	98.3 – 98.6°F	24-29 日
コンゴウインコ	36.8 – 37.0°C	98.3 – 98.6°F	26-28 日
ボタンインコ	36.8 – 37.0°C	98.3 – 98.6°F	22-24 日
アフリカングレー	36.8 – 37.0°C	98.3 – 98.6°F	28 日
エクレクタス	36.8 – 37.0°C	98.3 – 98.6°F	28 日
家禽類:			
ニワトリ	37.4 – 37.6°C	99.3 – 99.6°F	21 日
キジ	37.6 – 37.8°C	99.6 – 100.0°F	23-27 日
ウズラ	37.6 – 37.8°C	99.6 – 100.0°F	16-23 日
アヒル	37.4 – 37.6°C	99.3 – 99.6°F	28 日

- 発育中の胚は短時間の温度低下にはある程度耐性があります。そのため、卵を確認するために一時的に冷却されることについてはあまり心配する必要はありません。ただし、設定温度より高温になると孵化率に深刻な悪影響を及ぼす可能性があるため、注意が必要です。
- Maxi 24 Zoologica には高温・低温を警告する温度アラームが内蔵されています。詳細はセクション 4 をご参照ください。

6 湿度と換気

湿度のしくみ

湿度が短時間変動するのは問題ありません。孵化期間全体を通して平均湿度が適切であれば、卵から適切な量の水分が失われ、健全な発育につながります。

また、孵化の1～2日前後は湿度を高く保つことが重要です。ただし、湿度が常に高すぎる状態が続かないよう注意しましょう。

孵化時の湿度管理

本製品内の湿度が設定よりも低くなると、ポンプが作動し始めます（短く断続的に動く場合もあります）。タンクから水を吸い上げ、内部の蒸散パッドへ送ります。

湿度が安定するまでに数時間かかることがあり、その後は湿度に応じてポンプが自動的に断続運転するようになります。

一般的な湿度の目安:

ふ卵中の相対湿度（RH）の目安です。

孵化期間中:	家禽類	40-50% RH
	水鳥類	45-55% RH
	オウム類	35-45% RH
孵化時:	共通	65% RH 以上

一般的な重量減少の目安:

種別ごとの理想的な重量減少率の目安です。

家禽類	13%
水鳥類	14%
オウム類	16%

より詳しい種別ごとの情報については、関連文献をご参照ください。

ふ卵中の湿度には、卵や加湿用の水からの水分蒸発と換気の度合い、この2つの要因が影響します。また、本製品内を通る空気に含まれる水分量も湿度に影響を与えます。

正しい湿度を保つための方法は主に2つです。

1: 湿度を測定し、種ごとの目安に合わせて調整を行います。

2: 卵の重量減少を定期的に測定することで、湿度の適正を確認できます。これは湿度の影響を直接反映する指標であり、種別ごとに公表されている理想的な減少率と比較することで、適切な湿度管理が可能となります。信頼性が高いため、孵化率の改善を図る場合や高価な卵を取り扱う際に特に推奨されています。

卵は殻を通して水分を失い、その蒸発の速さは周囲の湿度や殻の通気性によって変わります。ふ卵期間中は、卵の種類にもよりますが、約13～16%の水分が減るのが理想的とされています。ふ卵中に卵を定期的に計量し、その結果をもとに湿度を調整することで、適切な水分量を保てます。

さらに詳しい情報や、最適なふ卵のためのアドバイスについては、以下のサイトをご覧ください：
www.brinsea.co.uk/incubationhandbook

6 湿度と換気

湿度の設定方法



1. -と+ボタンを同時に押してメインメニューを解除します。



2. +ボタンを押して「RH%」までスクロールします。

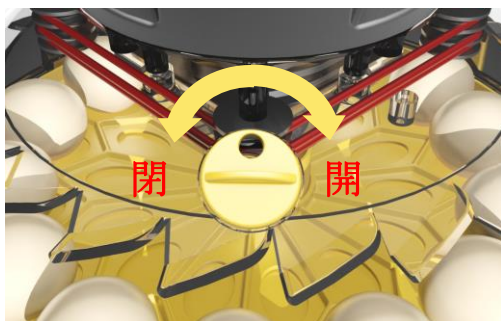


3. OK を押して RH%画面を開き、+と-ボタンで必要に応じて調整します。



4. OK を押してメインメニューに戻り、保存までスクロールして再度 OK を押し、変更を保存します。

通気口の調整



通気口の開閉によって湿度を調整できます。湿度を上げたいときは通気口を閉じ、湿度を下げたいときは通気口を開けてください。自動湿度制御機能を使う場合は、基本的に通気口を最小（閉）にしておいてください。

外部給水口は、ポンプシステムと併用しないでください。

本製品内の温度が設定温度より大きく下がっている場合（冷却機能が作動している間なども含みます／セクション 8 参照）、ポンプは作動しません。これは、卵の確認などでフタを開けた際に、システムが過剰に水を追加してしまうのを防ぐためです。

孵化の際には、湿度を高く保つことが重要です。孵化期間は短いため、水分や重さの減少はあまり問題になりませんが、湿度が不足すると卵の内膜が乾いて硬くなり、ひなが殻を破れなくなる恐れがあります。最初の卵が孵化し始めると、卵の内側の膜が乾いてくるため、湿度は自然に高くなります。これに加えてポンプによる給水も行われることで、適切な湿度が保たれます。

なお、孵化中にフタを開けると湿度が一時的に大きく下がり、回復するまでに時間がかかります。できるだけフタを開けず、点検の間隔は 6 時間以上あけるようにしてください。

湿度は 20～80%の範囲で設定できます。ただし、実際にどの程度の湿度が保てるかは、本製品を設置している部屋の温度や湿度など、周囲の環境によって変わります。設定を変更した場合は、湿度が安定するまで 24 時間ほど様子を見てください。

必要な湿度が確保できないときは:

湿度が下がらないとき

- この機種は加湿のみが可能で、除湿はできません。湿度を下げたい場合は通気口を全開にしてください。
- 最低湿度は、室内の空気中の水分量に左右されます。特に湿度の高い地域では下がりにくいですが、市販の除湿機で本製品を置いている場所の空気を除湿すれば改善できます。ただし、通常は問題になりやすいです。

湿度が上がらないとき

- 通気口を最小（閉じた状態）にしてください。
- ポンプ作動時に、きちんと水が供給されているか確認してください。チューブが折れていたり、つぶれていないか確認しましょう。つぶれていた場合は、やさしく伸ばして元に戻してみてください。改善しない場合はチューブの交換が必要です（詳細は 9 ページ参照）。シリコンチューブは柔らかく扱いやすい一方、鋭利な爪などで穴があくことがあります。吸引側に小さな穴が開いていると空気が入り、ポンプが水を吸い上げられなくなります。
- チューブは定期的に交換してください。目安は 3 か月ごとですが、使用状況によって異なります（詳しくは 9 ページ参照）。

結露

透明なフタの冷たい部分に結露が見られることがあります。これは自然な現象であり、孵化に悪影響はありません。ただし、室温が最適よりも低い可能性があることを示している場合もあります。

7 卵

卵の保存方法

卵は、涼しくて少し湿った場所に保管してください。

ほとんどの卵は、最大 14 日間までなら問題なく保存できます。14 日をすぎると、孵化率が下がるおそれがあります。また、保存しているあいだは、毎日少しずつ卵の向きを変えてことで、孵化しやすい状態を保つことができます。

ヒビが入っていたり、変形していたり、ひどく汚れている卵は、できれば使わないようにしましょう。また、孵化用の卵は基本的に洗わないでください。洗ってしまうと、表面を守っている膜が取れてしまい、細菌に感染しやすくなります。

ただし、どうしても汚れが気になる場合は、専用の卵洗浄液を使って、メーカーの説明に従ってやさしく洗ってください。

卵のセット方法

卵をセットする前に、本製品を数時間運転し、温度が安定しているか確認してください。

Maxi 24 Zoologica にはウズラ・ニワトリ・アヒル・オウムなど、様々なサイズの卵に対応した卵座があります。

卵は、卵座のくぼみに横向きに置いてください。多くの場合、卵のとがった方を中心に向けて並べるのが最も均等に転卵されやすいです。どちら向きが最も安定して転がるかは、向きを変えて試してみてください。

卵は基本的に、とがったほうを下にして置きます。これは、孵化が進むにつれて卵の中の空気のとまりが大きくなり、自然とその向きで安定しやすくなるためです。もしとがった方が上向きになってしまう卵があれば、反対向きに回して正しくセットしてください。

また、卵の中央部分が汚れていないか確認してください。大きく汚れていると、転卵がうまくいかないことがあります。

転卵機能を ON にします（詳細はセクション 10 を参照）。ディスプレイの隅に「/」の記号が表示されていれば、転卵が動作中です。

卵をセットしたあとは、卵がゆっくりと温まるように、最初の 24 時間は温度を変更しないでください。水の量は 3 日おきくらいに確認し、温度は毎日チェックしてください。孵化期間の 1/3 を過ぎたあたりで検卵を行い、無精卵や発育していない卵を取り除きましょう。



卵は平らに寝かせてセットし、とがった方を卵座の中心に向けてるようにしてください。

7 卵

転卵設定



1. - と + ボタンを同時に押して、メインメニューのロックを解除します。



2. + ボタンを押して「転卵 ON/OFF」の項目までスクロールします。



3. OK を押して転卵モード画面を表示し、+ および - ボタンで ON または OFF を選択します。



4. OK を押してメインメニューに戻ります。「転卵間隔」の項目が表示されます。OK を押して転卵間隔の設定画面を開き、+ および - ボタンで、転卵の間隔（分）を設定します。



5. OK を押してメインメニューに戻ります。「転卵角度」の項目が表示されます。OK を押して角度設定画面を開き、+ および - ボタンで卵のサイズに合わせたタイマー（秒）を設定します。



6. OK を押してメインメニューに戻り、スクロールして「保存」まで進みます。OK を押して設定を保存します。

転卵について

Maxi 24 Zoologica の転卵システムには、以下の 2 つのモードがあります。

ON – 転卵システムが作動し、卵を左右交互に転がします。ディスプレイの隅に回転する線「/」のシンボルが表示されます。

OFF – 転卵システムが停止します。孵化直前の期間に使用し、ディスプレイの隅には「O」が点滅表示されます。

卵を転がす間隔の長さや、卵を回転させる角度は、卵のサイズに合わせて調整可能です。転卵モーターは一定時間（秒数）作動し、その時間によって適切な転卵角度（90～120 度程度）を設定できます。

大きな卵は、小さな卵と同じ回転角度を得るために、より長くモーターを回す必要があります。下の図を参考に、卵の直径に合わせて「転卵角度」の設定を行ってください。おおよそ 90 度～120 度の回転角度になるように調整します。

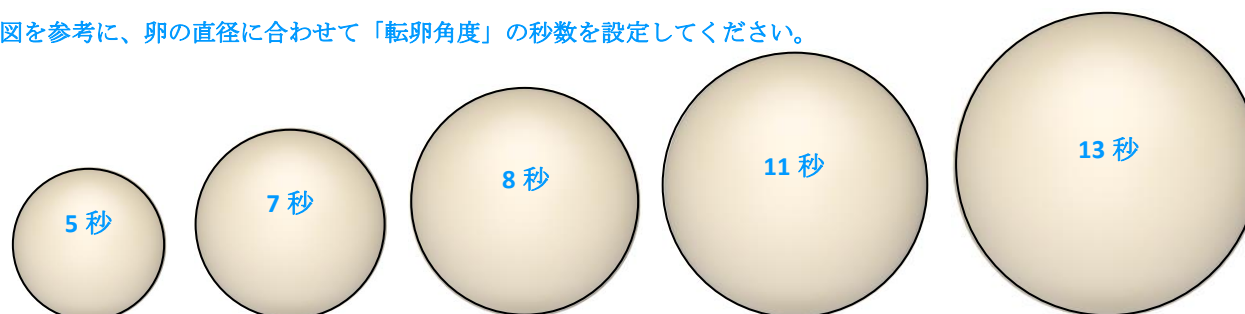
卵のサイズが混在する場合は、転卵角度を妥協する必要があります。一般的に、大きな卵が 90 度回転（1/4 回転）するように設定すれば、小さな卵はそれより多く回転しても問題ありません。オウム類などは、最初の 10 日間に大きな転卵角度を与えることで良い結果が得られることがあります。

卵を転卵板の外側と内側の両方に配置した場合、外側の卵の方がより大きく回転します。問題はありませんが、内側の卵が 90 度（1/4 回転）になるように転卵角度を調整してください。

多くの種ではおおよそ 1 時間ごとの転卵が適していますが、オウムの卵は最初の 10 日間に 5～10 分間隔でより頻繁に転卵するのが望ましいとされています。

孵化予定日の 2 日前には、必ず転卵を停止してください。

下の図を参考に、卵の直径に合わせて「転卵角度」の秒数を設定してください。



8 定期的な冷却機能

冷却時間の設定

冷却機能は必須ではなく、孵化に工夫を加えたブリーダー向けの機能です。初期設定では OFF になっています。孵化 7 日目以前や、孵化中には使用しないでください。



1. - と + ボタンを同時に押して、メインメニューを解除します。



2. + ボタンを使って、冷却設定まで進みます。



3. OK を押して冷却設定画面を開きます。+ - ボタンで OFF または 10～360 分の冷却時間を選択します。



4. OK を押して設定を確定し、さらに「保存」までスクロールして OK を押すと、変更できます。

定期冷却機能についての背景情報

いつ、1 日のうちのどの時間帯にどれくらい冷却するのが最適かという正確な情報は現時点では明らかになっていません。Brinsea 社は様々な研究結果を検討したうえで、ニワトリ・アヒル・野鳥類の卵については、孵化 7 日目から孵化予定日の 2 日前までの間、1 日あたり 30 分間の冷却が効果的であると推奨しています。（この期間は自動転卵機能を停止するタイミングと同じです）

インコや猛禽類には冷却機能の使用は推奨していません。効果がまだ確立されていないためです。詳細は Brinsea 公式サイトをご確認ください。

本製品での冷却機能の動作について

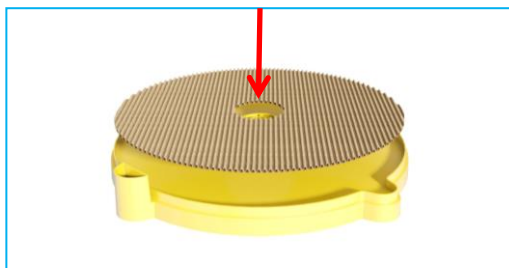
- 定期冷却機能を使用すると、設定時間中はヒーターと低温アラームが停止し、ファンのみが作動し続けます。冷却時間が終了すると、本製品は通常の温度に戻り、アラームも自動的にリセットされます。
- 各冷却は、本製品の電源を入れてから 24 時間後に開始し、それ以降は毎日ほぼ同じ時刻に始まります。途中で電源が切れると、そこからまた 24 時間のカウントが再開されます。
- 冷却中は、ヒーター表示の「*」が消え、代わりに下向き矢印「↓」が表示されます。冷却が終わると「*」が再表示され、所定の温度まで再加熱を始めます。室温によっては再加熱に 30 分以上かかることもあります。
- 冷却中、加湿ポンプは動作しません。空気が冷えるため、湿度は自然に上昇します。

9 孵化とお手入れ方法

孵化

1: Maxi 24 で孵化を行う場合は、孵化予定日の 2 日前までにメニューから回転機能を OFF に設定してください。

2: 本体のカバーを取り外し、仕切りを外したうえで、孵化用マットを底部に敷いてください（孵化予定日の 2 日前）。その上に卵を直接置きます。孵化用マットは再利用しないでください。交換用マットは brinsea.co.uk、brinsea.com またはお近くの販売店で購入できます(製品コード 14.902)。



3: カバーを元に戻してください。

孵化時には湿度を高く保つ必要があります（詳細はセクション 6 を参照）。

ほとんどの卵が孵化したら（最初の卵が孵化してから 12～48 時間以内）、ヒナをブローダー（育雛器）へ移してください。Brinsea EcoGlow 600 および 1200 は、ニワトリやカモ類などの一般的な家禽に適しています。Brinsea TLC-40 および TLC-50 は、より繊細な種（エキゾチックバード）におすすめです。

孵化中は、フタを開けるたびに湿度が急激に低下します。元に戻るまで時間がかかるため、頻繁に開けるのは避けてください。点検の間隔は最低でも 6 時間以上空けるようにしましょう。

お手入れ

重要:

掃除をするときは、必ず本体の電源を抜いてください。

電気部分が濡れないように注意し、本体の上部を水に浸けないでください。

土台・卵ホルダー・フタ・外側のパーツは、50℃以上のお湯で洗わないでください。また、食器洗い機も使用できません。

Maxi 24 Zoologica を使った後は、卵ホルダーと土台を、メーカー推奨の濃度に薄めた水性の消毒液に浸して洗い、そのあとしっかりと水ですすいでください。ファンカバーについたほこりは、掃除機や柔らかいブラシで取り除きましょう。本体の中は、消毒液を湿らせた布で拭き取り、そのあと水を湿らせた別の布で拭き取って仕上げてください。使う消毒液の説明書に従ってください。

もし別の孵化専用機を使っている場合でも、2 か月に 1 回はこのお手入れを行ってください。

本体の外側は、固く絞った布で拭きましょう。電気部分の中に水が入らないように注意してください。

ファンカバーをとめているネジ 4 本を外します。カバーを外して、浸け置き洗いします。ファンやヒーターコードに付いたほこりやゴミは、柔らかいブラシで取り除いてください。液体は使わないでください。ファンカバーを外した状態で、上フタを裏返さないでください（ファンが固定されていません）。ファンは、上フタの内側にある 4 つの突起にきちんと乗せ、ラベルが内側を向くようにセットしてから、カバーを元に戻します。ネジは締めすぎないように注意してください。

保管する前には、必ず本製品をきれいにし、しっかり乾燥させてください。水を入れずに 24 時間動かして、内部までよく乾かしてください。

故障かな？と思ったら

まず、電源が入っているか、または電源ケーブルがしっかり差し込まれているか確認しましょう。

温度と湿度の表示は、工場で 1 台ずつ調整されていますが、必要に応じて再調整することも可能です。万が一、うまく孵化できず「温度や湿度が正しく調整されていないのでは？」と感じた場合は、販売店や Brinsea (sales@brinsea.co.uk) までご相談ください。

10 製品仕様

MAXI 24 最大セット可能数:

卵の種類 一度にできる個数

インコ	68 個
ウズラ	40 個
キジ	24 個
ニワトリ	24 個
アヒル	12 個

本体サイズ: 354mm x 354mm x 165mm

重量: 1.923 Kg

消費電力:

最大 40 W
(平均) 24 W

電圧: 100 - 240v, 50/60Hz, 1.3A max.

ニワトリ用
容量 : 24 個
部品番号 : AC06



アヒル用
容量 : 12 個
部品番号 : AC03



ウズラ用
容量 : 40 個
部品番号 : AC10



インコ用
容量 : 68 個
部品番号 : AC17



ご使用後は、家庭ごみとして捨てないでください。適切にリサイクル・処理するため、自治体指定の回収場所へお持ちください（無料で引き取られます）。

詳しくはお住まいの自治体にお問い合わせください。

正しく処分することで、貴重な資源の再利用につながり、環境や人の健康への悪影響を防ぐことができます。

適合宣言書

企業名: BRINSEA PRODUCTS LTD.
32-33 Buckingham Road
Weston Industrial Estate
Weston-super-Mare
North Somerset
BS24 9BG

該当製品:

孵卵器:

Maxi II Eco (シリアル番号 AC25x/xxxxxxxx, AC25/xxxxxxxx)
Maxi 24 Advance (シリアル番号 AC261x/xxxxxxxx, AC261/xxxxxxxx)
Maxi 24 EX (シリアル番号 AC271x/xxxxxxxx, AC271/xxxxxxxx)
Maxi 24 Zoologica (シリアル番号 AC28x/xxxxxxxx, AC28/xxxxxxxx)

本宣言が準拠している英国規制:

機械規則 2008

電磁両立性指令 2016

RoHS 指令 2012

以下の規格関連項目に準拠しています。

BS EN 60335-1:2012+A15:2021
BS EN 60335-2-71:2003+A1:2007
BS EN 55014-1:2017+A11:2020
BS EN 55014-2:1997+A2:2008
BS EN 50581:2012

製品に関する技術文書は、上記住所にて入手可能です。

認定代表者: Ian Pearce (マネージングディレクター)

署名:

発行日: 19 9 月 2024

発行地: 32-33 Buckingham Road, Weston Industrial Estate, Weston-super-Mare, North Somerset, BS24 9BG, United Kingdom.

CE EU 適合宣言書

欧州議会および理事会決定 No.768/2008/EC Annex III に準拠し、以下の通り宣言します。

1. 製品モデル/製品名:

製品名:	孵卵器
モデル名:	Maxi II Eco (シリアル番号 AC25x/xxxxxxxx, AC25/xxxxxxxx) Maxi 24 Advance (シリアル番号 AC261x/xxxxxxxx, AC261/xxxxxxxx) Maxi 24 EX (シリアル番号 AC271x/xxxxxxxx, AC271/xxxxxxxx) Maxi 24 Zoologica (シリアル番号 AC28x/xxxxxxxx, AC28/xxxxxxxx)

2. 製造者情報:

会社名:	Brinsea Products Ltd.
所在地:	32-33 Buckingham Road, Weston Industrial Estate, Weston-super-Mare, BS24 9BG, England
認可代表者:	
会社名:	Authorised Rep Compliance Ltd.
所在地:	Ground Floor, 71 Lower Baggot Street, Dublin, D02 P593, Ireland

3. 本宣言は、製造者が単独の責任において発行したものです。

4. 宣言書の対象製品:

製品名:	Maxi II Eco, Maxi 24 Advance, Maxi 24 EX, Maxi 24 Zoologica 孵卵器
仕様:	電圧 230V, クラス III 機器 12V dc, 2.2A, 最大容量 24 個

5. 上記製品は、以下の EU 整合法に適合しています:

2006/42/EC	機械規則
2014/30/EU	電磁両立性指令 (EMC)
2011/65/EU	有害物質使用制限指令 (RoHS 指令)

6. 準拠している規格および技術仕様:

EN 60335-1:2012+A15:2021
EN 60335-2-71:2003+A1:2007
EN 55014-1:2017+A11:2020
EN 55014-2:1997+A2:2008
EN IEC 63000:2018

7. 技術文書は、上記の認可代表者所在地にて入手可能です。

署名者:	Brinsea Products Ltd.
発行場所:	Weston-super-Mare
発行日:	19 9 月 2024
氏名:	Ian Pearce
役職:	マネージング・ディレクター
署名:	